

〈食欲の秋〉

作って食べる

食欲の秋。

作って食べるレシピ本はンもちろん

食を考えたたり、物語を読んで楽しんで、

色々集めました



考える

食の地域

ブランド戦力

The 基本



基本。その書名通り、豚汁、ハンバーグ、唐揚げなど、家庭料理の定番とも言える料理の作り方が載っています。これから料理を始めてみようと思う人にぴったりな一冊。和洋中、様々なものが載っているので、食べたいなと思ったものを作ってみてください。

ちなみに「目玉焼きをきれいに焼くコツ」なんていうのもあります。



サンジの満腹ごはん



「ONE PIECE」のサンジが漫画内で作った料理のレシピ本。さすが、海の一流料理人のレシピだけあって、手が込んでいるものが多いです。

オープンを使用したものが多く、

ダシも市販のものをベースにはしていません（巻末にダシの取り方がのっています）。料理が好きな人やONE PIECEファンにおすすめです。「ONE PIECE」仕事場飯、尾田家の家庭料理。パラッチもあり、おもしろいです。



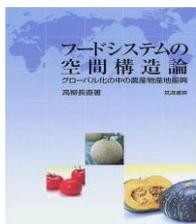
楽しむ

英国一家

日本を食べる



タイトル通り、著者「マイケルブラス」が妻と子供2人と一緒にとにかく食べています。日本滞在はなんと一〇〇日間！「北海道」から「沖縄」まで、ご当地グルメや一見さんお断わりの料亭などなど。また、それだけではなく、味噌釀造、酒蔵、昆布魚の見学もしたり、日本の料理がどのように作られているのかも調べて、私達の勉強にもなります。文章が堅苦しくなく、とても読みやすいです。



フードシステムの空間構造



アンソロジー お弁当



ご当地グルメを地域の町おこしに利用する自治体は年々増加傾向にあります。昨今の「B・1グランプリ」加熱ぶりをしてみると、それがいかに自治体にとってプラスになっていくのかがよく分かります。

本書では「食」をどのようにブランド化し、町おこしをしていったのか。そして、それを継続させるには、等書かれています。第8章の「木の葉をつむものとして」は一時テレビでもよく取り上げられていたのでご存じの方も、いるのでは？

現在日本の農業は、グローバル化によって、縮小傾向にあります。本書では、グローバル化により、フードシステムの空間構造がどのように変動し、日本の農産物産地は、どう対応しなければならぬのかを農業地理学的に説明しています。

様々なお弁当の種類ごとに、様々な作家のお弁当にまつわる話を集めた本です。池田正太郎、山本周五郎から林真理子、よしもとばなな、江國香織など。一話一話が短いの、読みやすいです。また、本の合間に綴られている様々な職業、性別の方のお弁当の写真も良いです。まずは、目次を眺めて気になる話を読んでみてください。

11月復刻版紹介

児童文学

復刻版（明治〜大正）

赤い蠟燭と人魚

小川未明の創作した童話は千編にのぼると言われ、「日本のアンデルセン」と呼ばれる。

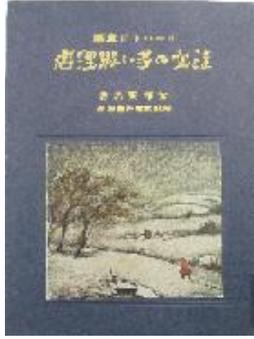
本書は、未明が中学生時代に下宿していた家の足菱えの母がモデルで、新潟県の雁子浜に伝わる人魚伝説から発想したといわれている。



注文の多い料理店

一〇〇〇部自費出版されたが、思うように売れず、二〇〇部を自費で買い取っている。タイトルの上にイーハトヴ童謡集とあり、賢治はこの後も一連のイーハトヴ童謡集の構想を立てていたが、作品の評判もあまり良くなく、取りやめた。

杜陵出版部が昭和二二年に「注文の多い料理店」を復刻しているが、軍事色の強い「鳥の北斗七星」は削除され、「注文の多い



料理店」は敗戦後のSEIの検閲でひっかかり、物語冒頭の「すっかりイギリスの兵隊のかたちをして」の部分が削除された。

春と修羅



賢治が生前刊行した唯一の詩集。発行は東京の関根書店であるが、実情は自費出版。関根書店発行という名義にしたのは、配本を東京の書店に頼らなければならなかったためである。

詩人の中原中也や富永太郎らに強い影響を与え、草野心平や高村光太郎からも評価を受けるものの、世間一般では受け入れられず、大半が売れ残り、自ら双頭の部数を引き取るようになった。

セロ弾きのゴーシュ



本作には賢治自身が実際にチェロを練習した経験が反映されていると考えられる。賢治は農民の啓発と生活改善を目的とした「羅須地人協会」を主催していた時代に農民楽団の実現と自作の詩に曲をつけて演奏することを目指してチェロを購入し練習した。ゴーシュの性格は粗野で学長に叱られた鬱憤はらしに弱者（生意気な猫）を虐めるなど卑屈な若者として描かれている。しかし、動物達への無償の行為を通じて次第に謙虚さと慈悲の心が芽生え、それによって真に音楽を理解できる青年と成長していったという物語になっている。

宮澤賢治手帳



元々左開きのノートを右から使用している。賢治には手帳の見返しに落書きを書く癖がある

遠野物語



柳田国男が、小説家・民話収集家であった岩手県遠野町出身の佐々木喜善によって語られた遠野盆地〜遠野街道にまつわる民話を筆記・編纂し、自費出版した初期の代表作。